明治学院大学 教養教育センター紀要
2(2):069-076,2008

チリの学生運動・大学改革運動

― 60 年代、70 年代クーデターに至るまで

中島さやか

1960 年代の社会運動を再考する上で、世界の多くの地域の学生運動・大学改革運動は重要な要素である。日本で言及される 60 年代の世界の学生運動は、フランスをはじめとするヨーロッパなどの先進西洋諸国のものが多く、ラテンアメリカのものに関してはメキシコのトラテロルコ事件などの例外を除いて少ない。学生運動・大学改革運動はラテンアメリカの多くの国々の 60 年代の社会構造や歴史を理解する上で一つの重要な要素であるにもかかわらず、このテーマは中央政府や軍の動き、経済的な側面などと比べると一般的にあまり研究が進んでいるとは言えない。

本稿では 1960 年代のラテンアメリカの学生運動・大学改革運動の一つのケースとしてチリの運動を取り上げ、簡単に紹介する。チリを取り上げる理由は以下の通りである。

1．チリはこの時代、特に 70 年のアジェンデの政権誕生前後と 1973 年のクーデターに至るまで、ラテンアメリカではキューバに続いて日本を含む世界の注目を集めた国であった。当時のチリにおいて大学、大学改革運動・学生運動は非常に大きな社会・文化的意味を有しており、政治とも深い関わりをもっていた
2．チリの大学改革運動・学生運動はその規模の大きさと社会的重要性、という観点から世界の大学改革運動、学生運動の歴史にひとつの興味深いケースを提供してくれると考えられる

60 年代チリにおける大学、学生運動・大学改革運動の社会的位置づけ

20 世紀のラテンアメリカ、とくに 60 年代までは大学・学生運動が各国個別の社会的文脈において大きな意味を有していた例が少なくないが、中でもチリの学生運動は当時のチリの一般の社会とも密接な関わりがあり、中央政府にとっても政治的に一定の意味を有していた。それは、当時のチリの大学は今日のものとは比較にならないほど多様な機能を果たす巨大な文化機関であったことによる。60 年代のチリの大学は以下のような特徴を有していた：

1．国内唯一の高等教育機関であり、数少ない研究機関であり、国内の知識人を擁護するほぼ唯一の機関であった（知の独占）
2．テレビというマスメディアを独占し、出版・ラジオなどの当時の有力なメディアもかかえていた。中でもテレビは 70 年まで全て大学チャンネルであり、また大学は全国規模のラジオ局を抱える数少ない機関であり、安定した出版局も抱えていた（メディアとしての重要性）
3．北部から南部の都市を網羅したキャンパスを有する、数少ない全国規模の組織であった（組織としての重要性）
4．国民文化（芸術文化・一部の大衆文化も含める）の擁護・創造の役割を担う独占的な文化機関であった（芸術文化創造の独占）

5．学生は後の社会的エリートになることが多く、大学人や学生運動家の中には政府や政治家との結びつきがあるものも少なくなかった（政治的意味）

チリの学生組織はこのような大学という巨大な文化機関の中で影響力を持っており、当時の学生組織のリーダーは一般社会でも一定レベルの尊敬を受けていた。この時代、学生組織は学生運動によって大学内の意思決定に正式に参加する権利を獲得して学内での影響力を強め、実際に様々な改革を推進していくことになる。

60 年代のチリの学生運動の特徴

チリの学生運動の歴史は長く、最古の大学生の組織、FECH（Federación de Estudiantes de la Universidad de Chile）は 20 世紀初頭に誕生した。高度に組織化され、長い歴史を有する FECH は 20 世紀前半から 60 年代に至るまで、特に文化面において国内で一定の役割を果たしていた。本稿の中心テーマではないのでここでは詳しく触れないが、中でも労働者向けの教育や 40 年代の文化運動などは特筆に価する。その後、チリ大学の FECH に続き他大学でも学生組織が作られた。各大学により活動に傾向の違いは見られたが、60 年代に入ると規模や内容において様々な変化が起こり、程度の差はあるものの一定の共通の傾向を持つようになる。

その背景には、60 年代の世界一般の大きな変化、そして農業改革（Reforma Agraria）に代表されるチリ国内の大きな社会変動、加えて国内・海外の様々な思想の影響があった。

キューバ革命や相次ぐアジア・アフリカ諸国の独立、ガガーリンの宇宙飛行に象徴される科学技術の進歩、アメリカ合衆国の公民権運動、第二バチカン公会議、ベトナム戦争などこれら一連の世界で起こった出来事は当時のチリの知識人や学生に大きなインパクトを与え 、また一般的な左翼的思想のほかに従属論や開放の神学につながる一連の議論なども彼らに影響力を与えた。

これらのことが人々の価値観や生活が大きく変わるという希望をもたらし、学生や知識人は「世界が変わる」「新しい秩序が生まれる」という大きな夢を共有するようになる。世界の周辺の貧しい発展途上国であり、搾取にあえぐ貧しい人々や労働者が多くを占めるチリにも公正な社会を作ることができる日が来ると彼らの多くは考えるようになった。

このような状況の中で社会の知の中心である大学は、どうあるべきか、何をするべきかが問われるようになった。大学の役割を問い、大学改革を行うための議論は知識人や学生などの大学人だけでなく、大統領や代表的な政党（保守派、改革派を含めた）、そして著名なカトリックの聖職者にも及び、国家規模で大学論が展開されるようになった。そして、これらの議論は、「大学は、国家やラテンアメリカという地域が自立的に発展できるように、社会を導く必要がある。」という考えに結びついていった。それは、政治・経済面だけでなく独自の科学的・文化的な発展を行えるよう、大学が積極的に社会変革に貢献する、という壮大な考え方だった。この考えは後に大学改革運動のプロセスの中で「大学から社会を変える」という考え方にまで発展していく。

このような考えを背景に発展した 60 年代のチリの大学改革運動・学生運動は次のような特徴が見られた：

1．背景となる大学論（目指すべき理想の大学）の存在
2．参加した人間・改革が及んだ内容の規模の大きさ
3．カトリック大学を中心に、中産階級の上・上層階級に属する学生の中にも運動に積極的に参加した人が多くいた
4．20 世紀前半の大学論は主に、大学が文化のない大衆に対して「上から」文化を与えるという考え方だったのに対し、60 年代は、まず大学が社会の現実を研究し、社会からのフィードバックを大学が得て、さらにそれをもとに大学が社会に働きをかけ…という双方向の関

係を想定していた

60 年代のチリの学生運動の具体的な動き

チリでよく言及される学生運動の象徴は 67 年のバルパライソのカトリック大学の占拠であるが、60 年代の大学改革運動は様々な大学で何年も前に始まっていた。

この時代の記録に残っている最初の動きは、国立工科大学（Universidad Técnica del Estado）のコピアポキャンパスで 61 年に始まった大学改革運動である。この運動は当初、学内組織の責任者の就任に反対する抗議行動から始まったが、徐々に全学・全国規模に広がり、要求内容も変わっていった。

運動のプロセスの中で学生は、学長を交代させたり、大学内の意思決定に正式に参加する権利を手に入れたりして学内での一定の権力を勝ち取り、具体的な改革に乗り出していった。個々の大学の動きや改革の内容は各大学によって異なり、ここで詳しく紹介することはできないが、それぞれの大学の改革には、１．学内の教育プログラム・組織・研究に関わる内部の改革、そして、２．社会一般に影響力がある対外的な改革の双方に形や程度の差はあるものの一定の共通の傾向がみられた。

改革の共通する内容には、例えば教育のレベルでは１に属するものとして、新しい学科の設置、フレキシブルなカリキュラムの導入、学内組織の新たな設置・再編成、研究活動の奨励、専任教員のポストの増加などがあり、２に属するものとしては、それまで大学とは無縁だった貧しい労働者階級や地方の農業従事者などにも広く大学の門戸を開放し、奨学金を出して優先的に受け入れたり、そうした人々のための新たなコースを設けたりしたことなどがあげられる。

研究のレベルでは、大学の研究機関としての一般的な役割の強化があったが、他にも国家の現実的な問題、例えばポブラシオン (低所得者居住地区) 居住者や単純労働者、地方の雇われ農民など貧しい人々や社会の周辺に置かれた人々が抱える問題などについて積極的に研究することを奨励したりした。

また、この時代に特徴的なものとして学生組織が中心となって大学が対外的に様々な「サービス（servicio）」を無償で提供したことがあげられる。

例えば、法律や医療など一定の知識や技術がある学生や大学人が積極的に社会の周辺に置かれた人々のところへ出向いて日常的な問題を解決する手助けをしたり、読み書きをはじめとする基礎教育のボランティアを行ったり、音楽など芸術文化を伝えたりした。また、夏のボランティア活動を通じて地方に行き、農作業や土木建設の手助けをするなど、様々なサービスが大学の学生組織を通じて提供された。

60 年以前にも大学によっては一部似たような動きがあったが、改革運動のプロセスでこうした行動が大きな規模で組織化されて行われるようになった。

このような学生組織を中心に行われた対外的な活動は、今日のように、コミュニケーション手段があまり発達していなく、知識･技術･サービスなどが提供できる国や民間の機関や企業などが限られていた当時のチリの社会的文脈では一定の意味を有していた。

また、この時代のチリの主要な大学は全国各地にキャンパス（sede）をもっていて、全国規模で組織化されていた。この時代の学生組織は労働組合やその他地域の組織などとも関係があり他の社会運動との結びつきもあったので、大衆動員に利用できる可能性も持っていた。その意味で、大衆動員の政策を進めていたフレイやアジェンデ大統領にとっても大学は重要な機関であり、アジェンデ大統領は学生と共に新秩序の構築のために戦うことを公言していた。

この時代のチリの学生運動・大学改革運動は文化運動とも密接に結びついていた。もともと、チリの大学は芸術部門の創作に関しては大学の独占状態だったが、大学は 60 年代から花開いてきた国内のポピュラー文化を積極的に擁護し、学生組織もその制度化や普及に

大きく貢献した。最も著名な例は、Víctor Jara, Inti Illimani、その他 Nueva Canción Chilena と呼ばれるようになった大衆音楽であるが、それだけでなく後のチリの文化を代表することになる映画作品の製作、当時盛んになった壁画運動などの活動も積極的に援護し、体外的なアピールにも利用していった。学内にペーニャが作られるなど大学というスペースそのものが音楽やアートの場に化していくという現象もみられ、学内・学外を問わず、普及活動が進められた。

当時、大衆音楽や壁画などは広く一般にメッセージを伝えることができる重要な手段であると考えられており、大学や学生はこれらを用いて積極的に社会に向けて発信しようと努め、多くの場合政治的な意図にも利用された。

以上のように、学内の教育・研究のレベルにとどまらず、学外に対しても広く社会的な影響力を持つに至った 60 年代のチリの大学改革・学生運動だが、これらの現象を理解するには、工業化の波に乗り遅れた世界の周辺的存在の発展途上国という、当時のチリの状況を理解する必要がある。国家の機関や企業などの発達が不十分で、知識や技術を提供したり、普及のためのメディアを有している機関が限定されていた時代、それを提供できる大学や学生組織は影響力を持っていた。

また、チリは独立以来、文化的にヨーロッパや北米に対して受動的であり、自国の文化的アイデンティティーを模索し続けていた。60 年代の大学改革・学生運動は自国の大衆文化が花開いた時期と一致し、それを積極的に取り込むことによって、国民的文化運動としての様相も持つに至った。

このように大きな社会・文化的な意味を有する運動に発展した大学改革運動・学生運動だが、70 年代に近づくにつれ、あらゆる面で政治的色彩がより強みを増していく。特に 70 年のアジェンデ政権誕生以降はチリ社会一般の対立や混乱が大学にもそのまま持ち込まれ、対立によりチリの社会的機能が麻痺してくると同時に、大学や学生運動も分裂・対立し様々な面で機能しなくなってくる。

そして 73 年のクーデターを迎え、大学が軍の介入を受けると同時に大学改革運動・学生運動は終わりを告げる。大学の社会的における重要性が高かった分、介入の度合いも高く、多くのものが破壊されることになった。運動に積極的に参加した人々は亡命・国内での潜伏などを通じて新たな活動を行っていく。

終わりに

先進国・発展途上国双方の様々な国における学生の政治的行動を比較の観点から考察した P.G. アルトバックは、一般化は難しいとしながらも学生運動について「…ほとんどの場合、高等教育政策を継続的に変革していくという点に関しては、学生はほとんど成果を得ていない。」「学生活動が教育に及ぼす影響はさほどでもない。」と述べている。しかし、チリのケースは言説や社会的インパクトのレベルにとどまらず、具体的な改革が行われ、そしてその改革の内容が大学という組織の内部だけでなく当時のチリ社会・文化一般にも影響を与えるものであった。この意味において世界の学生運動の一つの興味深いケースといえるであろう。

しかし、大学や大学改革運動・学生運動の社会的・文化的位置づけは地域や時代によって異なるので、この現象を理解するには当時の時代背景を理解する必要がある。中でも、世界の多くの若者や知識人が新秩序の構築を夢見ることができたという 60 年代の世界の時代背景、ラテンアメリカの発展途上国であったチリ独自の社会的・歴史的背景、そしてその中の大学・学生組織の歴史的発展、などグローバルな要素とローカルな要素の双方を総合的に分析する必要がある。

今日のチリでも大学レベルの学生運動は国立大学を中心によく見られる現象である。しかし、学生が運動を通じて目指すものは奨学金の問題の解決など、経済的な要求が中心であることが多く、60 年代の学生運動と比較すると規模においても、内容についても、部分

的なものであるといえる。そのためか、学生運動・大学改革運動、というテーマは研究者の間でも今日あまり脚光を浴びているとはいえず、分析的な視点にたった研究は少ない。

しかしながらこの現象は、チリの大学が73年以降の軍政の時代に受けた大きな制度変革（反改革）に直接つながるテーマであり、また、60年代のチリの社会構造や文化の制度性について分析することができる一つの重要な切り口でもある。その意味でも、分析的な視点にたったより詳細な研究を行うことは意味のあることだと思われる。

参考文献

Brunner, José Joaquín, *Informe sobre la educación superior en Chile,* FLACSO, Santiago de Chile,1986.

Brunner, J.J., y Flisfisch, A., *Los intelectuales y las instituciones de la Cultura,* FLACSO, Santiago de Chile,1983.

Brunner, José Joaquín, "La educación superior en Chile: 1960-1990, evolución y políticas", *Foro de la Educación* , FLACSO, Santiago de Chile, 1992,pp.5-123.

Brunner, José Joaquín, *Universidad Católica y cultura nacional en los años 60. Los intelectuales tradicionales y el movimiento estudiantil,* FLACSO, Santiago de Chile, 1981.

Brunner, José Joaquín, *Concepciones de Universidad y grupos intelectuales durante el proceso de Reforma de la Universidad Católica de Chile; 1967-1973,* FLACSO, Santiago de Chile, 1981.

Cifuentes Seves, Luis (editor), *La reforma universitaria en Chile (1967-1973),* Editorial Universidad de Santiago, Santiago de Chile, 1997.

Federación de estudiantes de la Universidad Católica, *La Universidad; nuestra tarea:* Documentos para la VI convención de estudiantes, Editorial del Pacífico, Santiago de Chile, 1964.

Fuenzalida, Valerio, *Transformaciones en la estructura de la T.V. chilena,* CENECA, Santiago de Chile, 1982.

Garretón, M. A., y Martinez, J.(eds.), Biblioteca del movimiento estudiantil:
Vol.I: *Universidades chilenas: historia, reforma e intervención.*
Vol.II: *La reforma en la Universidad Católica de Chile.*
Vol.III: *La reforma de la Universidad de Chile.*
Vol.IV: *El movimiento estudiantil: concepción e historia.*
Vol.V: *Antecedentes estructurales de las universidades.*
Ediciones sur, Santiago de Chile, 1985.

Garretón, M.A., Pozo, H., *Las universidades chilenas y los derechos humanos,* FLACSO, Santiago de Chile, 1984.

Godoy, A. y González, J. P. (editores), *Música popular chilena 20 años 1970-1990,*Ministerio de Educación, Santiago de Chile,1995.

Goecke, Ximena, *Nuestra Sierra es la elección, Juventud revolucionarias en Chile1964-1973.* Tesis para optar al grado de licenciado, Pontificia Universidad Católica de Chile, Santiago de Chile,1997.

Huneeus, Carlos, *La Reforma Universitaria -20 años después-, CPU,* Santiago de Chile, 1988.

Hurtado, María de la Luz, *Historia de la TV en Chile (1958-1973),* CENECA, Santiago de Chile, 1989.

Kirberg B., Enrique, *Los Nuevos Profesionales - Educación Universitaria de Trabajadores Chile: U.T.E. 1968-1973,* Instituto de Estudios Sociales Universidad de Guadalajara, México, 1981.

Krebs, R., Muñoz, M. A. y Valdivieso, P., *Historia de la Pontificia Universidad Católica de Chile 1888-1988 tomo I*, Ediciones Universidad Católica de Chile, Santiago de Chile, 1994.

Krebs, R., Muñoz, M. A. y Valdivieso, *P., Historia de la Pontificia Universidad Católica de Chile 1888-1988 tomo II,* Ediciones

Universidad Católica de Chile, Santiago de Chile, 1994.

Lavados Montes, Jaime, *La Universidad de Chile en el Desarrollo Nacional,* Editorial Universitaria, Santiago de Chile, 1993.

Muñoz, Correa, J.G., Norambuena,Carrasco C. y al., *La Universidad de Santiago de Chile sobre sus orígenes y su desarrollo histórico,* Universidad de Santiago de Chile, Santiago de Chile, 1987.

Ribeiro, Darcy, *Universidad Latinoamericana, Editorial Universitaria,* Santiago de Chile, 1971.

Scherz, Luis García, *El Camino de la Revolución Universitaria,* Editorial del Pacífico, Chile, 1968.

Universidad Nacional Autónoma de México Dirección General de Difusión Cultural, *La Difusión Cultural y la Extensión Universitaria en el Cambio Social de América Latina,* II Conferencia Latinoamericana de Difusión Cultural y Extensión Universitaria 20-26 Febrero 1972.

アルトバック P.G., 馬越徹 監訳（1994）『比較高等教育論』玉川大学出版会

1　本稿は 2006 年 10 月に 1960 年代の社会運動をテーマとして開催された同時代史学会第 14 回定例会で筆者が行った発表に加筆・修正を加えたものである。

2　但し、テレビが一般大衆のレベルにまで広く普及したのは軍政の時代であるとされている。

3　80 年代に入るまでチリの大学は 8 つしかなかったがそのうちの 3 つ、首都サンティアゴに本校を置くチリ大学、国立工科大学、カトリック大学は地方にそれぞれ 10、12、4 のキャンパスを有していた。参考：Briones, Guillermo, *Las Universidades Chilenas en el Modelo de Economía Neo-liberal: 1973-1981,* PIIE, Santiago de Chile, 1981, p.21-22.

4　Garretón, M. A., y Martinez, J.(eds.), *Biblioteca del movimiento estudiantil*: Vol. IV: *El movimiento estudiantil*: concepción e historia. Ediciones sur, Santiago de Chile, 1985. pp.64-65

5　例えば、Carlos Ochsenius は、*Teatros universitarios de Santiago: 1940-1973*, CENECA, Santiago de Chile, 1982, p.87-95 で大学生・学生組織と 40 年代のチリの芸術運動について説明している。Enrique Kirberg, は *Los Nuevos Profesionales － Educacón Universitaria de Trabajadores Chile: U.T.E. 1968-1973*, Instituto de Estudios Sociales Universidad de Guadalajara, México, 1981, p.210-213 で、チリの大学生が 1918 年から 1950 年代まで首都で行っていた人民大学や各種学校などの主に労働者を対象と教育活動について説明している。
このほかにも、José Weinstein y Eduardo Valenzuela: "La FECH de los años 20. Un movimiento estudiantil con historia". SUR, Santiago, 1980 などにも FECH がチリ社会で果たした役割についての記述がある。

6　従来私立のカトリック系の大学は国立大学と比較すると保守的とされ、学生組織の活動の内容にもキリスト教的な価値観に基づいたものや保守的な傾向が見られたが、60 年代はカトリック大学の学生組織も労働者階級との結びつきを強めるなどの変化があった。但し、首都のカトリック大学では 69 年に右派の学生組織が選挙に勝利し改革運動と反改革運動が学内に共存するようになる。

7　Enrique Kirberg, op.cit., p.29-34 の説明が詳しい。

8　60 年代、大学論に関する出版物は数多く存在したが、例えば Vial Larraín, Juan de Dios, Eduardo Frei Montalva, Luis Scherz García y otros, *La Universidad en Tiempos de Cambio*, Editorial del Pacífico, Santiago de Chile, 1965 には当時の代表的な知識人や政治家の大学論が集められている。

9　例えば、Federación de estudiantes de la Universidad Católica, *La Universidad; nuestra tarea*: Documentos para la VI convención de estudiantes, Editorial del Pacífico, Santiago de Chile, 1964. には、当時多くの学生にインパクトを与えたカトリック大学のあり方についての論考が載

っているが、他にも60年代ラテンアメリカの様々な国で知られるようになったブラジルのDarcy Ribeiroの大学モデルにもこの時代のラテンアメリカの大学論の様々な要素が集約されており、ブラジルからの亡命知識人の大学論がチリの学生組織のメンバーに影響を与えたという証言が残されている。Ribeiroのモデルはチリでは1971に*Universidad Latinoamericana*というタイトルでまとめられ、Editorial Universitariaから出版された。

10 従来のチリ大学を中心とする学生運動の主力は中産階級であったとされている。この時代、富裕な階層の学生が集まるカトリック大学で学生運動が活発化し、大学を占拠するに至ったことは当時のチリでは大変な社会的インパクトがある出来事であった。

11 各大学の改革運動の動きについては、国立工科大学のものではKirberg, op.cit.、カトリック大学のものではBrunner, J.J., y Flisfisch, A., *Los intelectuales y las instituciones de la Cultura,* FLACSO, Santiago de Chile,1983、チリ大学を含んだ他大学のものではHuneeus, Carlos, *La Reforma Universitaria -20 años después-*, CPU, Santiago de Chile, 1988. などの記述が参考になる。
また、Cifuentes Seves, Luis (editor), La *reforma universitaria en Chile (1967-1973)*, Santiago de Chile, Editorial Universidad de Santiago, Santiago de Chile, 1997などにも説明がある。

12 但し、活動はボランティアだったので必ずしも体系だったものではなかったとの証言もある。

13 当時のチリ大学の学生組織のリーダーAlejandro Rojasの証言によると、アジェンデ大統領は70年の選挙に勝利したのち、チリ大学の学生組織に電話で直接そのことを告げ、大統領自身がFECHの建物のバルコニーからチリの人民に向って演説をすること提案をするなど、学生組織との連携を重視し、一種の象徴的な意味も持たせようとしていたことが伺える。Alejandro Rojas Wainer, "El movimiento estudiantil, la reforma y la universidad en Chile, 1968-1973: de la explosión de la esperanza a la pesadilla", Garretón, M. A., y Martiínez, J. (eds.), *Biblioteca del movimiento estudiantil*, Vol. III, p.69参照。

14 成功しても生活が安定しないアーティストを大学で雇用することによって、創作や普及活動に専念するための最低限の経済的基盤が保障した。また、大学に雇われることにより当時数少なかった録音機材やコンサートを行える場を利用できるようになるなど、様々なメリットがあった。

15 Peňa Folklórica Chilena：この時代多く見られたイベントの場。歌や詩の朗読、フォルクローレの演奏などが行われ、演奏の後にはアーティストと聞き手との交流や意見交換などもあり、政治的な思想を普及する場としても利用されていた。

16 アルトバックP.G., 馬越徹 監訳 (1994)『比較高等教育論』玉川大学出版会 p.229.

17 同上 p.236